

小麦の多収栽培に関する予備試験

農業大学校養成分部

従来、麦類には多様な播種様式があり、特に、佐賀県平坦部では「全面全層播き」での多収の経験を語る農家が多い。また、九州地域麦類多収研究会でも、密条播+後期追肥で1t/10a近くの多収を報告している。

本試験では、小麦の多収実現のための基礎試験として、播種様式(条播・散播)と施肥(1月増肥)との組み合わせ試験を行い、小麦増収の可能性を明らかにする

1.試験方法

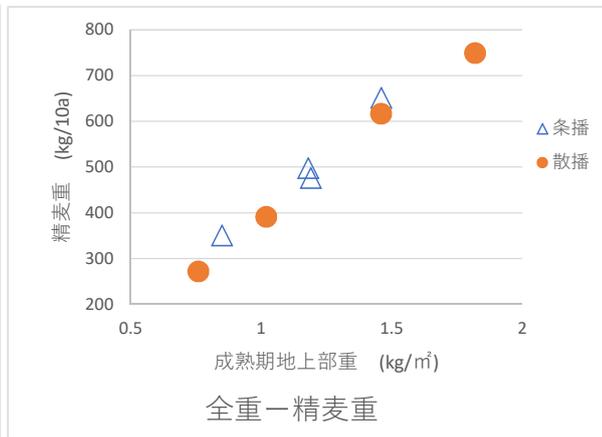
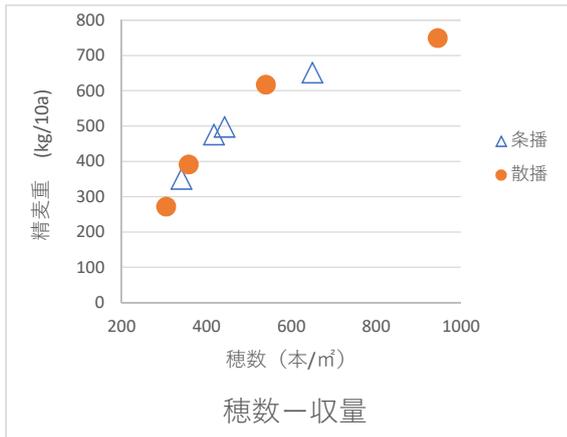
- 1) 供試品種 小麦 ニシハルカ
- 2) 供試圃場 農業大学校水田4-3 前作水稻
- 3) 播種 2017年12月8日

4) 試験区の構成

150cm畦5条播 160粒/m² } × { 6-3-3-2
 150cm畦散播 160粒/m² } × { 6-6-3-2
 ブロック法 2反復 (1区 3m×5m)

表1 成熟期の形質及び収量

	稈長	穂長	穂数	全重	精麦重	同左平均	屑重
プロ:	c m	c m	本/m ²	kg/m ²	kg/10a		kg/10a
条播標準	A	64	7.2	443	1.18	424	33
	B	62	7.8	341	0.85		23
散播標準	A	65	6.8	359	1.02	331	22
	B	70	6.6	306	0.76		25
条播増肥	A	75	8.4	650	1.46	563	38
	B	71	7.8	418	1.19		44
散播増肥	A	78	8.0	946	1.82	683	19
	B	77	7.5	541	1.46		28



畝間に常時滞水が認められる「湿害田」を供試した。

1月19日の追肥量を対照の倍量施用した。

多肥区で穂数が増加した。特に散播での増肥で穂数増が顕著であった。

穂数が多かった増肥区で多収となった。

【要約】

穂数が少なく低収であるほ場条件において、散播及び1月追肥の増肥を実施することで小麦の増収効果が認められた。